

多職種合同カンファレンスを通じた 職種イメージの変化

○片山史絵1)、中里和弘1)2)、丹野直子1)、川越正平1)

あおぞら診療所1)、東京都健康長寿医療センター研究所2)

在宅医療連携拠点が行う事業

- 1 多職種連携の課題に対する解決策の抽出
地域の在宅医療に関わる多職種が一堂に会する場を設定

- ・ 病院関係者・介護従事者等も含む
- ・ 年4回以上

2 在宅医療の負担

3 効率

4 在宅

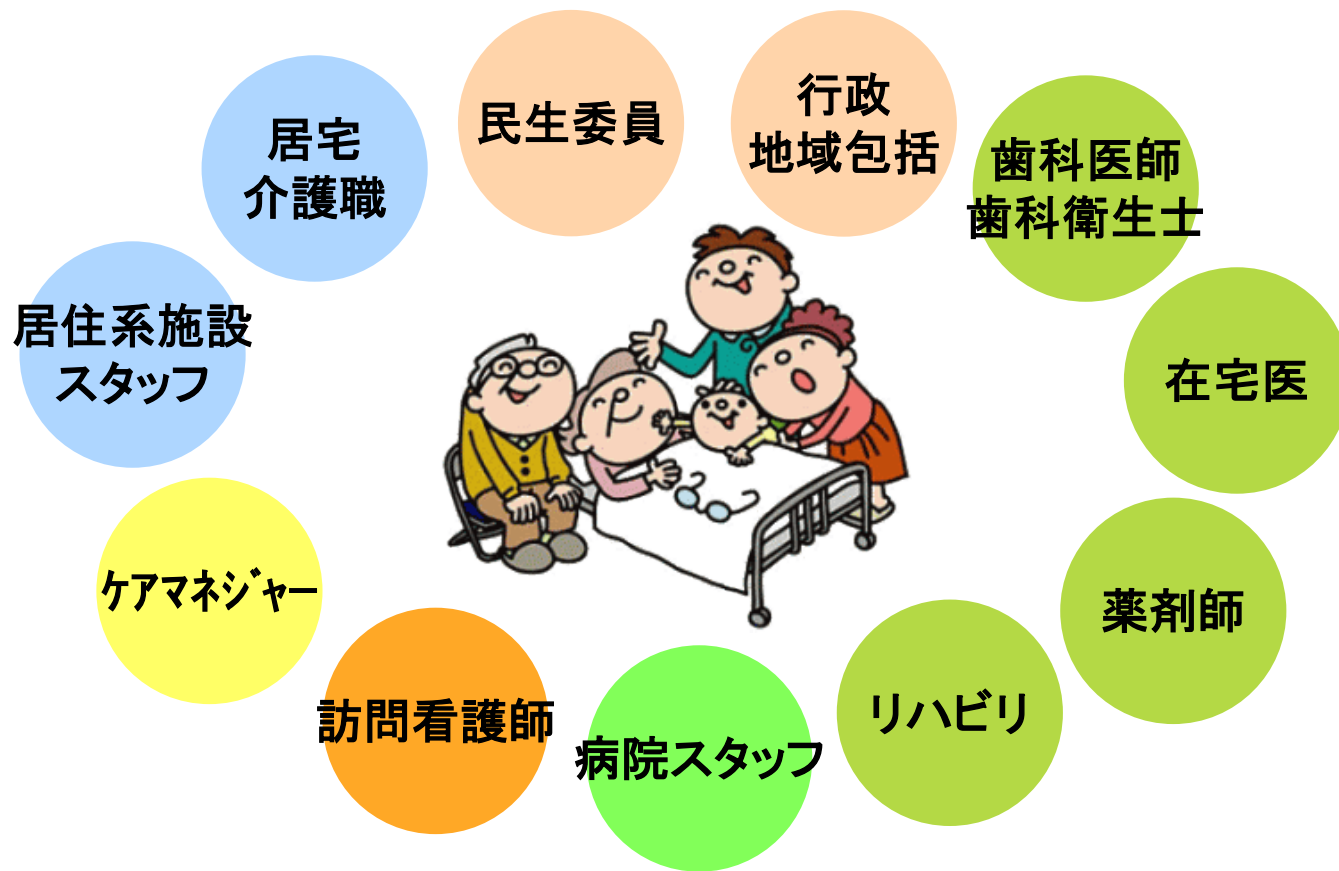
5 在宅



当院では
「多職種合同カンファレンス」
と呼んで、昨年度より開催

の人材育成

なぜ多職種合同カンファレンスが必要？



顔を合わせる機会

専門性の理解

課題や解決策の抽出

背景・目的

多職種合同カンファレンスは

自分の職種に求められる役割

他職種の視点や専門性

を知る場として有効



多職種合同カンファレンスを通じて、他職種に抱くイメージがどのように変化したのかを明らかにすることを目的とした

方法

対象

第4回多職種合同カンファレンス(平成24年2月)に参加した医療福祉従事者103名→90名回答(分析対象)

質問内容

- 1 多職種合同カンファに初めて参加する前と今現在で、職種イメージや職種の役割の捉え方が特に変わった／新たに知ったことの多かった職種を3つ選択
- 2 選択職種ごとにどのように変化したか回答

結果

主な内容

	薬剤師	歯科	医師	ケアマネ	SW	看護師	PT / OT
仕事内容							
連携や協同の可能性							
訪問の有無							
在宅への関心							
患者や生活への関心							
重要性の認識							
困っていることの把握							

薬剤師

カンファレンス前

薬の取り扱い、薬局での調剤
「カウンターの向こうで調剤する人」



カンファレンス後

在宅に積極的で服薬指導などをする
「在宅での服薬指導や患者への関わり」

情報共有が不足して困っている
患者の病名に関する情報がない
「病名を知らずに薬を出している」

歯科医師・歯科衛生士

カンファレンス前

義歯や虫歯の治療、在宅とは疎遠
「歯のことばかり考えている」



カンファレンス後

訪問して口腔ケア、誤嚥性肺炎の予防などを行う
「歯だけでなく食にまで関係している」

情報共有が不足して困っている
「全身状態を把握したいということを知った」

医師

カンファレンス前

怖い、かたい、敷居が高い、連携しづらい
「怖い、忙しい、介護職を見下している」



カンファレンス後

連携できる、協働できる

「連絡の仕方を工夫すれば接点をもてる」

優しい、やわらかい

「なかには話しやすい先生がいらっしゃる」

ケアマネジャー

カンファレンス前

サービスの手配、具体的には分からない
「サービスの調整のみ行っている」



カンファレンス後

多職種をつなぐ、在宅の中心、しっかり考えている
「在宅のハブ」「きめこまやかなマネジメント」

忙しい！苦勞している

「業務が多すぎる」「苦勞がわかりました」

ソーシャルワーカー

カンファレンス前

退院時の調整、仕事内容が分からない
「病院の紹介」
「漠然とお世話になっていた」



カンファレンス後

退院後も関わりをもつ、多職種をつなげる
「退院後も医師との間の窓口になる」
「他職種と医師との間をつなげる人」

看護師

カンファレンス前

病棟看護師は在宅に関心なし
「現場のことだけに集中しているのか
とっていた」



カンファレンス後

病棟看護師も在宅に理解、関心がある
「在宅を見据えた指導への気持ちはある」

「病院と診療所、訪看では交流が思った以上
ない」

PT／OT

カンファレンス前

リハビリ室で運動訓練をする

「筋力upし、関節の動きを良くしてくれる」
「単にリハビリの方と思っていた」



カンファレンス後

利用者の生活機能を支える

「自宅の改修の指導もする」「QOLに影響する」
「家の中での動線まで考えている方がおられ、
驚きました」

まとめ

他職種との情報共有、議論、交流を繰り返す



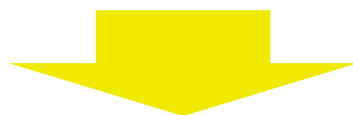
共通点の認識
(患者や生活に関心がある、
訪問している)

**仕事内容や
専門性の理解**

**困っていること
の把握**

重要性の認識

連携や協同の可能性



日常の仕事に生かせる、更なる他職種理解が必要

当院の取り組み

第8回多職種合同カンファレンス

IPW (Inter-Professional Working 多職種協働) をテーマに、他職種に対して自分の職種についてPRする

